

volume
98

2024年春号

おんじや

《特集》

これまでの大阪市ハウジングデザイン賞と 都市型集合住宅のこれから

大阪くらしの今昔館 news

企画展「船場花嫁物語II」レポート

大阪くらしの今昔館 新収蔵品 桜下美人図

コラム

災害にそなえて

第3回 避難と住まいの再建

大阪市住まいのガイド

借りる・買う・建てる・建て替える
各種住宅施策のご案内

〈今月の表紙〉

大阪市内の集合住宅群

これまでの

大阪市ハウジングデザイン賞と

都市型集合住宅のこれから

1987(昭和62)年にスタートした大阪市ハウジングデザイン賞。魅力ある都市型集合住宅の表彰は今年で36回目を迎えました。賞の立ち上げに携わり、現在は大阪市ハウジングデザイン賞選考有識者会議座長を務める高田光雄氏にお話を伺いました。

また、2024(令和6)年2月18日(日)に開催した第10回ハウジングデザインシンポジウムを振り返ります。

INTERVIEW

インタビュアー

表彰をとおして

都市居住の魅力

発信する

大阪市ハウジングデザイン賞
選考有識者会議座長

京都美術工芸大学副学長

京都大学名誉教授

高田 光雄氏
たかだ みつお



大阪市ハウジングデザイン賞は「大阪市内における都市居住を促進していくための表彰制度。まちとつながり、まちに住む魅力を引き出す都市型集合住宅を表彰してきた」と高田氏はいう。現在まで、長年この賞に携わってきた高田氏の視点から、表彰制度立ち上げの経緯や目的について聞いた。

大阪は気候風土、交通や生活の利便性、近隣コミュニティなどが良好で、古くは難波宮の頃から現代に至るまで人々が住み継いできた都市である。第二次世界大戦中に市内中心部は大部分が焼け野原となってしまったが、力強く復興した新しいまちとともに、古いまちなみが残る地域もあり、多様な生活文化が市内各地に蓄積されている。

とはいえ、戦後復興期から高度経済成長期にかけては、大阪に限らず全国的

に、早く安く大量に住宅供給を行うことが強く求められ、低質で画一的な住宅が増え、都市居住の魅力がなくなりつつあった。1970年代に入ると量的な充足が得られたものの、良質な都市型集合住宅はなかなか増えなかったこともあり、住宅政策は量より質を求める流れへと転換すべき時期に入る。

1980年代のはじめ、若手の研究者や実務家、行政関係者らが「大阪における都市居住の課題と展望」を議論する場がつくられた。公的住宅中心の住宅政策の見直しや地域性の重視、集合住宅団地の事業コンペ開催、大阪の住まいの歴史研究、住まいの絵本づくりなど、さまざまなアイデアが出された。大阪にはどのような住宅が必要なのか、どんなことができるのかを「とても自由に議論できる場であった」と、当時



あんじゅはウェブサイトでもご覧頂けます。

議論に参加した高田氏は振り返る。

大阪の都市居住について交わされた議論は「21世紀都市居住イベント構想(大阪市H O P E計画)」となって結実する。「H O P E計画」は国の住宅制度で、地域特性を踏まえた居住空間を整備することを目的に創設された。大阪府で取り組むにあたっては「都市居住の魅力の創出とその活性化」が基本理念に掲げられた。大阪市ハウジングデザイン賞もこの構想の一環で創設されることとなった。

表彰制度設計にあたって、大阪市内にあるマンションの質や類型を把握するための調査を実施した。対象となったのは、1975(昭和50)年から1985(昭和60)年までに大阪市内で供給された民間分譲住宅806件、約6万5千戸。調査に1年、分析に1年という大規模調査となったが、「当時は、表彰するような民



間住宅があるのかと心配するほどだったが、調査によって表彰する物件があることがわかった」と高田氏はいう。

民間分譲住宅の調査をする一方で、海外の住宅政策や表彰制度についての調査も行われた。英国の「H O U S I N G D E S I G N A W A R D S」からは特に多くの示唆を得たという。当時、英国では、新築住宅は、既存建築物の用途変更や改修、高齢者住宅などの表彰住宅のカテゴリーの一つに過ぎなかったことも驚きであったという。

英国では、公共住宅も民間住宅も表彰対象であったが、大阪市ハウジングデザイン賞では民間住宅のレベルを上げるという狙いがあり、対象を民間住宅共同住宅/長屋/戸建住宅の集合に絞って実施してきた。高田氏は「まちの魅力を高めて、まちに住むことを促進する住宅を表彰する制度」だと話す。審査では、集合住宅が立体的な「まち」をつくる要素として計画され、周辺地域と良好な関係をつくっているかどうかが重視されてきた。

実は、住まい情報センターと大阪くらしの今昔館をつくるきっかけとなったのも、大阪市H O P E計画だった。大阪の都市居住の歴史を紐解く書籍『まちに住まう 大阪都市住宅史』(大阪府都市住宅史編集委員会編/平凡社/1989)刊行によって生まれた研究成果を発信

するためのミュージアムづくりが検討された。同時期に住宅情報の総合拠点づくりも検討されており、ミュージアムに有する住まい情報センターの開設につながった。

改めて高田氏に大阪における都市居住の魅力について聞くと「大阪には地域によって異なる文化があり、それぞれに魅力がある。例えば歴史的街並みが継承されているH O P Eゾーン事業対象地

区の平野、空堀、住吉、天満、船場、田辺など、沖縄文化が根付く大正、韓国など多様な外国文化との共生を目指す生野などだ。大阪には、長い居住の歴史があり、一方で新陳代謝があるのも魅力。それぞれの地域文化を大切にして、魅力を引き出し、住み継いでいくべき。ハウジングデザイン賞を広く知っていただくことで、都市居住の魅力に目を向けてもらいたい」と語った。

第36回 大阪市ハウジングデザイン賞表彰式

2024年2月18日(日)13:00開催



第36回大阪市ハウジングデザイン賞表彰式を行いました。181件の応募の内、2件が大阪市ハウジングデザイン賞特別賞(特定の分野において特に優れているもの)を受賞しました。住之江区の「カサレ ウェストゲートシティ」はまちと調和する豊かな緑地環境が設えられたランドスケープデザインが評価され、港区の「ベイシティ大阪」は管理組合と町会の協力による資産の維持管理やコミュニティ活動等への積極的、継続的な取り組みが評価されました。大阪市ハウジングデザイン賞選考有識者会議座長高田光雄氏から「次年度以降、まちと深く関わる環境的、社会的、文化的持続可能性を追求した提案住宅がより多く応募されることを期待したい」と講評がありました。

受賞住宅



カサレ ウェストゲートシティ
(住之江区東加賀屋1丁目) [新築・分譲]



ベイシティ大阪
(港区池島3丁目) [維持管理・分譲]

第10回大阪市ハウジングデザインシンポジウム

これまでの大阪市ハウジングデザイン賞(*1)と
都市型集合住宅のこれから

シンポジウム前半では、これまでの大阪市ハウジングデザイン賞受賞者4名が受賞作品や現在の取り組みを紹介。後半は同賞選考有識者会議メンバーの江川直樹氏、座長の高田光雄氏を交えた密度の高いディスカッションが繰り広げられました。



「このまち、この場所」を考え抜いた
受賞作品

古山 日建ハウジングシステムは「生きるも、活きるも、創る」をテーマに、社会課題に向き合いながら設計に取り組んでいます。

第3回受賞の「武田淀川ハイム」は、社宅と単身者寮として建てたものです。プライベートや通風環境に配慮し、社宅はあえて2棟に分節しました。単身者寮の1、2階には食堂などを設け、働く人が気持ちよく暮らせるようにしています。

第11回受賞の「メゾン文の里 阿倍野ツイン」(1)は、すぐ隣にある高層マンションの眺望の確保も考えて分棟しました。2棟にしたことで外気に接する部分が多くなり、通風環境がよいマンションとなっています。

2021年には、弊社の創立50周年を記念して次世代集合住宅を構想し発表しました。重視したのは永続性で、購入後

長く住みたくなる住まいを考えました。

また、永続性を実現するための商材として、可動式の間仕切り収納ユニットや、可動式のキッチンシステムを開発しました。生活環境の変化にあわせて、自分らしい住環境を維持するための仕組みも提案していきたいと考えています。



(1)メゾン文の里 阿倍野ツイン

西川 アートアンドクラフトはリノベーションを専業としています。2006年

に「鎗屋アパートメント」が第20回特別賞を受賞しました。当時はリノベーションという言葉がまだまだ一般的ではなかったと思います。コンクリートの躯体が剥き出し

しのデザインなどリノベーションならではの空間も今では当たり前ですが、当時は印象的に映ったのではないのでしょうか。事務所から住宅への用途変更に必要な条件が現在よりも厳しく、採光を確保するための大掛かりな工事をするなど、さまざまな工夫をしました。リノベーションから20年以上経っても賃料が下がらず市場での価値を保っています。



(2)新桜川ビル

第32回特別賞の「新桜川ビル」(2)では設計監理と施工、賃借人募集まで一貫してサポートしました。「モダンズム再興」をコンセプトに掲げて、建築当時の意匠はそのままに建物を持つ良さを引き立てるリノベーションをしました。サインや銘板などは再利用して建物の歴史を残しています。ポロイ(汚い)のはNGだけでなく古い(趣がある)のはOK。築年数が経過した物件に対するユーザーの許容ラインは実に複雑。残すべきところ、更新すべきところを見極めながらリノベーションすることを心がけています。

パネリスト



こいけ しほこ
小池 志保子 氏

大阪公立大学大学院生活科学研究科教授。大阪長屋やニュータウンの空き家のリノベーションに取り組む。一級建築士、博士(工学)。2002年ウズラボ共同設立。2011年、2018年グッドデザイン賞、2021年大阪建築コンクール大阪府知事賞ほか。著書に『リノベーションの教科書』『竹原義二の視点 日本建築に学ぶ設計手法』(共著・学芸出版)など。

受賞歴(設計者:大阪市立大学都市研究プラザ+竹原・小池研究室)
第23回(H21)《特別賞》豊崎長屋(北区豊崎)



にしかわ じゅんじ
西川 純司 氏

株式会社アートアンドクラフト・大阪R不動産代表取締役社長。1985年生まれ、広島県出身。一級建築士。宅地建物取引士。2008年兵庫県立大学環境人間学部を卒業後、不動産デベロッパーを経て、2013年アートアンドクラフト入社。大阪R不動産事業に従事した後、建築・不動産の領域を横断しながら企画、コンサルティングを行う。2016年取締役就任、2023年より代表取締役。

受賞歴(設計者:株式会社アートアンドクラフト)
第20回(H18)《特別賞》鎗屋アパートメント(中央区鎗屋町1丁目)、第30回(H28)《特別賞》APartMENT(旧北川鉄工所社宅北棟)(住之江区北加賀屋2丁目)、第32回(H30)《特別賞》新桜川ビル(浪速区桜川3丁目)



ふるやま あきよし
古山 明義 氏

株式会社日建ハウジングシステム大阪代表 理事 設計部部長。1973年生まれ、兵庫県出身。大規模や超高層を中心とした分譲集合住宅、マンション建替、企業社宅など様々なタイプの集合住宅の設計を担当してきた。「渡鹿社宅」にてくまもと景観賞、「ローレルコート上本町石ヶ辻公園」にてグッドデザイン賞等を受賞。現在竹を活用した建築の研究にも取り組んでいる。

受賞歴(設計者:株式会社日建ハウジングシステム)
第3回(H1) 武田淀川ハイム(淀川区新高6丁目)、第11回(H9)メゾン文の里 阿倍野ツイン(阿倍野区美草園3丁目)、第13回(H11) プラネスーベリア与力町(北区与力町)、第19回(H17) グランドメゾン大手前タワー(中央区大手通1丁目、糸屋町1丁目)、第26回(H24)《特別賞》グランドメゾン靱公園(西区京町堀2丁目)

小池 大阪公立大学の研究拠点の一つ豊崎プラザが、第23回特別賞を受賞した「豊崎長屋」の一角にあります。豊崎長屋は競争を生き延びた長屋の一つで、梅田から歩いて15分ほどのところにあります。

舗装されていない路地と長屋がつくる光景は、昔ながらの大阪の都市居住の魅力を伝えるものです。研究者にとっても、学生にとっても魅力があります。歴史、住文化、デザイン、まちづくりなどの専門家が関わり、学生も交えて手探りでリノベーションに取り組んでいます。始めて間もない頃にハウジングデザイン賞特別賞をいただき、とても励みになりました。



(3) 豊崎長屋
(撮影:多田ユウコ)

1925年築の長屋を2008年にリノベーションし、その改修から15年を経た2023年に撮影しました(3)。入居者が庭の日当たりに合わせて植物を育てています。時間が経つと傷む箇所もありますが、時間がかけて整えていくことで、住まいが熟成していきます。そこが長屋の賃貸の難しい面でもあり、面白い部分でもあります。

大阪の長屋の魅力、その住まい方、地面に接した暮らしがあることを残していきたいと考えています。

中塚 地域計画建築研究所は総合的なプランニングやデザインを行っています。近年、力を入れているのが「持続可能な地域づくり」です。

昨年受賞した「寺田町プレイス」(4)は、戦後の区画整理があったエリアに位置します。相続の時期を迎え、建て替えによる高層化が進んでいるこの場所です。さらに高層住宅をつくるのではなく、ヒューマンスケールの建築にしようと考えました。

「上質な普通の暮らし」をテーマに、入居者が自身でよりよい住環境を得られる仕掛けを取り入れました。例えば、量販店で入手できる好みの照明器具を取り付けられるダクトレールの設置などです。



(4) 寺田町プレイス

運営面では、居住空間のことだけを考慮するのではなく、まちとのつながりを重視しました。地域住民や周辺エリアで活動する団体と関わる機会をプロジェクトに組み込みました。建て替え前から街角マルシェや音楽ライブなどを開催し、さまざまなつながりづくりに取り組みました。

ハウジングデザイン賞と都市型集合住宅のこれから

江川 先日、今回紹介された受賞住宅はすべて、現地まで見に行ってきました。建築は場所との関係性がとても重要ですが、みなさんがよく考えてエネルギーを注いで、その場所に合った建物をつくらせていることが伝わってきました。

例えば、メゾン文の里 阿倍野ツイン。景観を大切にした建築で、みんなでまちを作っている感覚を持つことができ、居住者とまちの人が仲良く暮らせるだろうと想像できます。

リノベーションで受賞した新桜川ビルのように、建築はいろいろに使回していくのが当たり前です。審査して「特別賞」としましたが、特別に素晴らしいから特別賞だと伝えたいです。

高田 江川先生から講評いただきました。感想などお聞かせください。

古山 過去の資料を調べ直すと、受賞作



たかだ みつお
高田 光雄 氏

京都美術工芸大学副学長、京大名誉教授。大阪市ハウジングデザイン賞選考有識者会議議長。1951年京都市生まれ。博士(工学)。一級建築士。専門は、建築計画学、居住空間学。居住文化を育む住まい・まちづくりの実践的研究を継続。(公社)都市住宅学会会長、(公財)京都市景観まちづくりセンター理事長、(一社)京都府建築士会顧問など兼任。共著書に「木の住まい」「少子高齢時代の都市住宅学」など。計画作品に、「実験集合住宅NEXT21」「平成の京町家東山八坂通」など。日本建築学会賞、日本建築学会作品選奨、都市住宅学会賞、日本建築士会連合会賞など受賞。



えがわ なおき
江川 直樹 氏

関西大学名誉教授、関西大学社会連携部顧問。大阪市ハウジングデザイン賞選考有識者会議メンバー。早稲田大学大学院修士課程修了。1977~82年現代計画研究所(東京)、1982年同大阪事務所開設、2004~21年関西大学建築学学科教授。2018年関西大学名誉教授。2022年関西大学社会連携部顧問。日本都市計画学会賞(計画・設計賞)、都市住宅学会賞、日本建築士会連合会賞(作品賞)他多数。2018年文部科学大臣表彰科学技術賞。

コーディネーター



なかつか はじめ
中塚 一 氏

株式会社地域計画建築研究所(アルバック)代表取締役社長。1961年京都府生まれ、滋賀県育ち。大学卒業後、民間住宅メーカーを経て1988年アルバック入所。技術士(都市及び地方計画)、一級建築士、認定都市プランナー。大阪公立大学大学院工学研究科非常勤講師。2018年日本都市計画学会関西まちづくり賞、2022年グッドデザイン賞、大阪市ハウジングデザイン賞など受賞。

受賞歴(設計者:株式会社地域計画建築研究所(アルバック))
第35回(R4)寺田町プレイス1(天王寺区寺田町2丁目)

コメンテーター



品の建設当時はみんなが興味を持ってプランニングに取り組んでいたことがわかりました。いつからか経済合理性に流され、プランが凝り固まっていると感じます。反省と自戒の念を込めて今後は積極的に取り組んでいきたいです。

西川 リノベーションでも大賞を取る可能性があるとわかり嬉しいです。建築業界は建物を「建築」と呼び、不動産業界では「建物／物件」と呼ぶ。同じものが違う呼び方をされることに業界の隔たりを感じます。建築と不動産の相互理解がもっと深まれば社会がより良くなるんじゃないでしょうか。リノベーションでは金融機関の融資による資金調達で苦戦することもあるので、金融業界も建築

やリノベーションに対して理解を深めていただけるといいですね。

小池 設計について専門家が一般の方に伝えることは大切です。背景が伝われば、建物に対する愛着が生まれ、長く住み継いでもらえるのではないのでしょうか。オープンナガヤ大阪(*2)や、イケフェス(*3)のように、建物を開放して設計者の思いを伝える機会があることは素晴らしいと思います。

江川 その通りだと思います。建物を開放して、賞があることを建築が専門ではない人にも広く知ってもらわないともったいない。

高田 賞の選考時は我々が必ず住まいの中に入り、可能な限り住まい手のお話を聞きます。毎回大きな気づきがあるので、シンポジウムの成果として今後は住まい手のお話を聞きながら受賞住宅を巡るツアーを開催するのでもいいですね。都市型集合住宅が抱える課題についてはどうお考えでしょうか。

古山 デベロッパは売ることが中心にあり、我々もその意見を聞いて設計します。例えば、デベロッパは建物の正面についてはとても気にするのですが、裏側はあまり重視しない。そういう建築の余白にも、建築家の手垢が残っているようなものをつくっていききたいと考えています。

西川 新築でも一戸一戸、住まい手に合わせた設計ができたらいなと思います。課題は多いでしょうが、専有部分の内装をつくらずスケルトン(建物の壁・柱・天井の骨組み)で供給できればよいですね。

高田 スケルトン・インフィルという形式は、時間と手間がかかります。しかし、手続きを踏まえればできる可能性も出てきている。裸貸(注1)の伝統をもつ大阪は、おそらく全国でもっともこの方式に理解のある自治体だと思います。

小池 維持管理はとても重要だと思います。マンションでは注目されていますが、戸建住宅郡にとっても同様です。住みなしていく上で、区分所有法など多くの知識を住民が得る必要があります。

高田 戸建住宅も2戸以上の集合であればハウジングデザイン賞に応募できます。建売住宅や長屋リノベーションにも関心を寄せていただいて、幅広い応募があることを期待します。もっと議論を重ねたいですが、最後に一言お願いします。

中塚 都市型集合住宅には民間だけでなく公的なものもあるので、両方考えていく必要があると思います。市営住宅が受賞することがあってもいいのではないのでしょうか。

小池 住宅はプライベートなものとして扱われますが、見学者を受け入れたり、

人を招き入れられる家をつくるなど、「家をひらく」方法を考えていきたいです。

西川 建築、不動産、金融の相互理解を深めていくことが、よりよい社会をつくっていくのではないかと考えています。

古山 今こそ地球環境をどうするかを考えなくてはいけない。先達のように風通しを考えるなど、地球環境にやさしい住宅づくりに取り組んでいきたいです。

江川 都市に住むということは、家の中だけでなくまちに住むということ。心に伝わるような、共に住むという視点で、みなさんと議論を深めていきたいですね。

高田 江川先生のお話はハウジングデザイン賞の目的そのものです。大阪のそれぞれの場所の特性を読み取って、その魅力や住まい方を継続的に発信することで、ハウジングデザイン賞が「まちに住む」上での新しい価値観を提起できるのではないのでしょうか。本日はありがとうございました。

Instagram始めました！ /

- *1 大阪市ハウジングデザイン賞 
- *2 オープンナガヤ大阪 
- *3 生きた建築ミュージアムフェスティバル大阪 

(注1) 家の外廻りの建具などは家主が用意し、室内の建具や畳は借家人が自分で工面していた。

災害に まなえて

第3回

避難と住まいの再建

京都市立大学大学院 人間・環境学研究科 准教授

まえだ まさひろ
前田 昌弘

災害に備えて住まいのためにできること「おおさか・あんじゅ・ネット」で公開中



イメージし、なるべく安心して避難生活を送れる場所を想定しておくことです。

日常から日常へ避難するための備え

最近では避難所におけるTKB(トイレ・キッチン・ベッド)の配備等の重要性が認識され、行政が指定する避難所の環境に改善の兆しがみられますが、十分とは言えません。避難所以外にも自宅・親戚・知人宅など、避難先の選択肢を複数持つておくことが重要です。また、過去の災害では、近隣の商店や工場

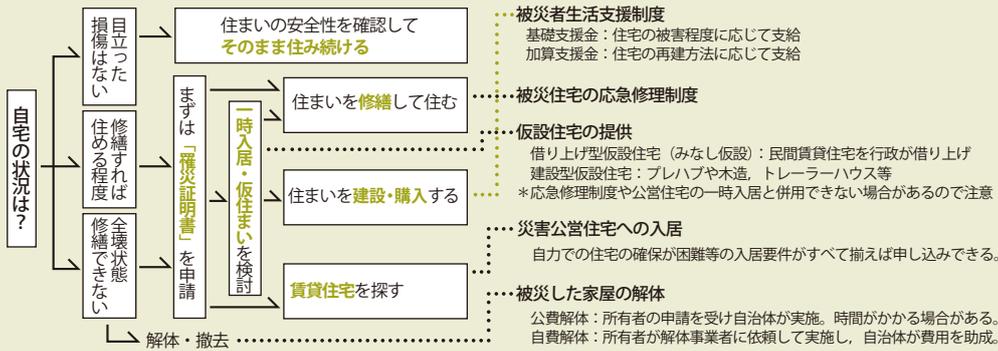
等の身近な場所が避難所の代わりになった例もあります。いざという時に誰かに頼れる場所を口頃からつくり、できればそこに災害時を想定した備蓄や設備を整えておく。そのような、非常時であっても日常を維持できる、「日常から日常へ避難する」とも言える備えが、避難先での孤立や負担を和らげてくれるはずです。

避難の先にある 住まいの再建をイメージする

住まいの再建の課題は、被害の特性や状況によって異なり、災害時には想定外への対応が付き物です。しかし、災害が起きてからできることには限りがあります。途方に暮れないためには、行政等が公開している住まいの再建のフロー等を参考にしながら、自宅が被災した時にすべきことを家族や近所の人と話し合っておくことです。そうやって、住まいの再建のイメージを口頭から膨らませておくことは、大災害への自身の住まいの備えだけでなく、自宅の早期再建により被災した地域の再生を助けることにもなります。命を守る避難から生活を守る避難へ、そしてさらにその先を見据えた備えをはじめましょう。

住まい再建のフロー

活用できる公的支援の例



* (一社)岡山県建築士会倉敷支部『水害に備えて』に加筆して作成

支援内容は状況により改定される場合があるので最新情報を確認しましょう。

「命を守る避難」と「生活を守る避難」避難と一口に言っても、「命を守る避難」(evacuation)と「生活を守る避難」(sheltering)があります。災害時にはまず何より命を守る避難が優先ですが、近年の大規模災害では、被災をきっかけとして心身の健康を崩し、最悪の場合には死に至る、いわゆる「災害関連死」が増加しています。家族や近隣を含めた災害関連死を防ぐのは、生活を守る避難です。そして、その第一歩となるのが、建物の倒壊等の直接的な被害から命が助かった後の生活まで具体的に



東日本大震災において避難生活の拠点となった個人商店 (2011年4月上旬、宮城県気仙沼市)

住まいを買う・建てる・建て替える・解体する

制度名称	制度概要	お問い合わせ
大阪市新婚・子育て世帯向け分譲住宅購入融資利子補給制度	初めて住宅を取得する新婚世帯・子育て世帯を対象に、住宅ローンの利子の一部を補助します。なお、予算の範囲内で先着順に受付します。申込みにかかる資格要件につきましては窓口までお問い合わせください。	大阪市都市整備局 住宅支援受付窓口 (住まい情報センター4階) ●TEL:6356-0805●FAX:6356-0808
大阪市子育て安心マンション認定制度	‘子育てに配慮した仕様’や‘子育てを支援する環境’を備えた良質なマンションを認定し、その情報を大阪市ホームページ等で広く情報発信していきます。	大阪市都市整備局 安心居住課 ●TEL:6208-9648●FAX:6202-7064
大阪市防災力強化マンション認定制度	耐震性や耐火性等建物の安全性に関する基準に適合することに加え、被災時の生活維持に求められる設備・施設等の整備、住民による日常的な防災活動等により防災力が強化されたマンションを認定し、広く情報発信していきます。	
民間老朽住宅建替支援事業	集合住宅への建替建設費補助	大阪市都市整備局 耐震・密集市街地整備受付窓口 (住まい情報センター4階) ●TEL:6882-7053●FAX:6882-0877 ※重点対策地区および対策地区の詳細はお問合せください。
	隣地を取得した戸建住宅への建替建設費補助	
	狭い道路に面した古い木造住宅の解体費補助	
防災空地活用型除却費補助制度	重点対策地区において、幅員6m未満の道路に面する昭和56年5月31日以前建築の木造住宅を解体し、跡地を災害時の避難等に役立つ防災空地として活用する場合、解体費用及び空地整備費用の一部を補助します。 ※本制度を活用して防災空地を整備した場合、土地の固定資産税・都市計画税が非課税になります(整備の翌年以降)。	大阪市都市整備局 密集市街地整備グループ ●TEL:6208-9235●FAX:6202-7025 ※重点対策地区の詳細はお問合せください。

住まいを改修する

制度名称	制度概要	お問い合わせ
大阪市耐震診断・改修補助事業	一定の要件を満たす戸建住宅等の所有者等に対して、耐震診断・耐震改修設計・耐震改修工事・耐震除却工事に要する費用の一部を補助します。また、木造住宅の所有者等に対して耐震事業者の情報を提供しています。	大阪市都市整備局 耐震・密集市街地整備受付窓口 (住まい情報センター4階) ●TEL:6882-7053●FAX:6882-0877
大阪市空家利活用改修補助事業	空家の利活用に向けた安全で良質なストックへの改修を促進するため、住宅の性能向上に資する改修工事や地域まちづくりに資する用途への改修工事等に要する費用の一部を補助します。	
マンション耐震化緊急支援事業	一定の要件を満たすマンションの所有者や管理組合などに対して、耐震診断・耐震改修設計・耐震改修工事に要する費用の一部を補助します。	
ブロック塀等撤去促進事業	道路等に面した一定の高さ以上のブロック塀等の撤去および軽量フェンス等の新設工事に要する費用の一部を補助します。	大阪市都市整備局 民間住宅助成グループ ●TEL:6208-9228●FAX:6202-7064
大阪市子育て世帯等向け民間賃貸住宅改修促進事業	LDK化や断熱改修、ユニットバスの新設・改良工事等、子育て世帯等の入居に資する改修工事を行う民間賃貸住宅のオーナーに対して、改修工事費の一部を補助します。	
大阪市住宅省エネ改修促進事業	既存住宅における省エネ性能を向上するため、一定の要件を満たす窓の断熱改修等(内窓設置・外窓交換等)とそれらに併せて実施する躯体等(天井、屋根、壁又は床)の断熱改修、設備等の省エネ改修工事費の一部を補助します。	大阪市都市整備局 まちなみ環境グループ ●TEL:6208-9631●FAX:6202-7064
大阪市地域魅力創出建築物修景事業(修景に関する無料相談など)	建物の修景の促進により地域魅力の創出を図るため、「修景相談」と「修景補助」を実施するとともに、修景された建物等を活かした「魅力発信等」に取り組んでいます。まずはお気軽に建物の修景についてご相談ください(無料)。	
高齢者住宅改修費給付事業	介護保険制度の居宅介護(介護予防)住宅改修費の支給を受ける方が属する世帯等で、生活支援・介護予防の観点から真に住宅改修が必要と認められる世帯の住宅改修費用の一部を給付します。	各区保健福祉センター 保健福祉課
重度心身障がい者(児)住宅改修費給付事業	在宅の重度の身体・知的障がい者、難病患者等の方が、日常生活上の障がいの除去または軽減に直接効果のある改修工事を行うとき、工事費用の一部を給付します。所得制限があります(ただし、介護保険制度が適用される方は本制度の対象となりません)。なお、必ず事前に申請が必要です。	

分譲マンション管理組合の方へ

制度名称	制度概要	お問い合わせ
分譲マンション勉強会支援アドバイザー派遣制度	分譲マンションの管理組合等が実施する勉強会を支援するため、講師として一級建築士や弁護士等の専門家を無料で派遣し、一般的なアドバイスを行います。	大阪市都市整備局 住宅政策グループ ●TEL:6208-9637●FAX:6202-7064
分譲マンション管理適正化支援アドバイザー派遣制度	築30年以上で管理に課題を抱える分譲マンションの管理の適正化を支援するため、マンション管理士等の専門家を無料で派遣し、解決に向けたアドバイスを行います。	
分譲マンション長期修繕計画作成費助成制度	長期修繕計画の作成又は見直しを行う管理組合に対して、作成費用の一部を補助します。補助率:補助対象となる経費の1/3 補助限度額:1件あたり30万円	大阪市都市整備局 住宅政策グループ ●TEL:6208-9637●FAX:6202-7064
分譲マンション再生検討費助成制度	再生(改修や建替等)に向けた検討を行う管理組合に対して、検討費用の一部を補助します。補助率:補助対象となる経費の1/3 補助限度額:1回あたり60万円	
分譲マンション管理計画認定制度	管理運営状況や長期修繕計画など、マンションの管理計画が一定の基準を満たす場合、「マンションの管理の適正化の推進に関する法律」に基づく認定が受けられます。	
大阪市マンション管理支援機構	公共団体や、建築・法律等の専門家団体等が連携して、分譲マンションの管理組合を支援します。登録組合には、セミナーの開催案内や情報誌等を無料で送付します。	大阪市マンション管理支援機構事務局 (住まい情報センター4階) ●TEL:4801-8232●FAX:6354-8601

借りる・買う・建てる・建て替える

大阪市住まいのガイド

紹介している大阪市の公的賃貸住宅や各種制度について、より詳しくお聞きになりたい方は各窓口にお気軽にお問合せください。



「おおさか・あんじゅ・ネット」からもそれぞれの制度をご覧ください。

より申請しやすい制度に！

大阪市子育て安心マンション認定制度及び大阪市防災力強化マンション認定制度

問合せ：
都市整備局企画部安心居住課
【電話】6208-9648 【FAX】6202-7064

制度改正のご案内

大阪市子育て安心マンション認定制度

子育てに配慮した仕様と子育てを支援する環境を備えた良質なマンションを認定する制度です。



◆制度改正のポイント

- ポイント1** 既存マンションも認定の対象にします。
- ポイント2** 日常生活での安全性に重点を置いた認定タイプ「安全型」を設けます。
※これまでの認定タイプは「総合型」になります。
- ポイント3** 認定基準の選択肢を増やします。

詳しくはホームページをご確認ください。



大阪市防災力強化マンション認定制度

耐震性など建物の安全性や防災活動等により防災力が強化されたマンションを認定する制度です。



◆制度改正のポイント

- ポイント1** 既存マンションが認定取得しやすくなるようハード基準を柔軟化してソフト基準を強化した認定タイプ「既存型」を設けます。
※これまでの認定タイプは「新築型」になります。
- ポイント2** 認定基準の選択肢を増やします。

詳しくはホームページをご確認ください。



住まいを借りる(公的賃貸住宅等)

- **市営住宅** ・住宅に困っておられる所得の低い方々向けの賃貸住宅です。原則として大阪市内にお住まいの方が対象です。
・収入基準は、一般世帯で158,000円以下、高齢者・障がい者世帯等で259,000円以下(月額所得額)となります。

募集種別(募集時期)	概要	お問い合わせ
定期募集等【抽選】 (例年7月上旬、11月上旬、2月上旬)	収入・同居親族等の条件があるほか、一般世帯・新婚・子育て・単身者向け等、各申込区分により申込資格を設定しています。一部の申込区分では、府内居住、市内在勤の方も申込みができます。	市営住宅募集センター募集担当* ●TEL:6882-7024 ●FAX:6882-7051
福祉目的募集【抽選】 (例年5月上旬)	ひとり親(配偶者のない方とその子ども(20歳未満)のみで構成する世帯)、高齢者(60歳以上)および障がい者(障がい者手帳(身体・精神・療育)等を所持していること)の方々が対象であり、各申込区分により申込資格を設定しています。申込書類は各区保健福祉センターで配布します。	ひとり親住宅/大阪市子ども青少年局 子ども家庭課 ●TEL:6208-8035 ●FAX:6202-6963 高齢者向け住宅/大阪市福祉局 地域包括ケア推進課 ●TEL:6208-8060 ●FAX:6202-6964 障がい者向け住宅/大阪市福祉局 障がい福祉課 ●TEL:6208-8081 ●FAX:6202-6962
随時募集【先着順、一部抽選】	定期募集等において、応募者が募集戸数に満たなかった住戸について、先着順で随時募集を行っています。募集住戸の追加[例年、年3回(4月・8月・12月)]があり、追加住戸については、抽選で入居者を決定します。	市営住宅募集センター募集担当* ●TEL:6882-7024 ●FAX:6882-7051

- **中堅層向け住宅** 公営住宅の収入基準を超えている方等、中堅所得者向け賃貸住宅(先着順)です。大阪市内にお住まいの方も申し込みができます。
- **その他の公的賃貸住宅**

住宅種別		お問い合わせ	管理者	お問い合わせ
大阪市管理	市営すまいりんぐ(子育て応援型)・市営すまいりんぐ・市営特定賃貸住宅・市営再開発住宅	市営住宅募集センター募集担当* ●TEL:6882-7012 ●FAX:6882-7051	大阪府住宅供給公社	大阪府住宅供給公社募集グループ ●TEL:6203-5454
大阪市住まい公社管理	公社一般賃貸住宅・公社すまいりんぐ	大阪市住まい公社募集担当 ●TEL:6882-9000 ●FAX:6882-7021	都市再生機構(UR都市機構)	UR梅田営業センター●TEL:6346-3456 空室情報フリーダイヤル:0120-23-3456

*市営住宅募集センター募集担当とは、大阪市営住宅指定管理者大阪府住宅供給公社市営住宅募集センター募集担当のことです。

民間賃貸住宅

制度名称	制度概要	お問い合わせ
セーフティネット住宅登録制度	低額所得者や高齢者、障がい者、子育て世帯等の住宅の確保に特に配慮を要する方の入居を拒まない住宅として、大阪市内に登録された民間賃貸住宅を、以下のサイトで検索できます。 (セーフティネット住宅情報提供システム) https://www.safetynet-jutaku.jp/guest/index.php	大阪市都市整備局 安心居住課 ●TEL:6208-9222 ●FAX:6202-7064
サービス付き高齢者向け住宅登録制度	高齢者が安心して暮らすことができる住宅として、大阪市内に登録された住宅を、以下のサイトで検索できます。 (サービス付き高齢者向け住宅情報提供システム) https://www.satsuki-jutaku.jp/	大阪市都市整備局 安心居住課 ●TEL:6208-9648 ●FAX:6202-7064
大阪あんぜん・あんしん賃貸住宅登録制度	高齢者、低額所得者、障がい者、外国人、子育て世帯等の入居を拒まない賃貸住宅や、その仲介を行う協力店、入居の支援を行う団体、相談の窓口等が、以下のサイトで検索できます。 (あんぜん・あんしん賃貸検索システム) http://sumai.osaka-anshin.com/	大阪府 居住企画課 ●TEL:6210-9707 ●FAX:6210-9712

大阪市立 住まい情報センター

のご案内

相談専用電話 (06) 6242-1177

住まいに関するご相談をお受けしています。
無料
【随時】窓口相談・電話相談
 公的賃貸住宅などの住まい探しをはじめ、住まいを購入するときや建てるときの一般的な注意点、分譲マンション管理に関する情報や大阪市を中心とした住宅施策などに関するご質問に窓口または電話で相談員が対応します。まず相談内容をお聴きして、問題点の整理・解決のために必要な知識や情報を提供します。英語、中国語、韓国、朝鮮語にも対応します。(外国語対応は17時まで)

住まいの専門家相談(予約制/面接相談)

ご予約は30日前からお受けしています。
 お申込みに際しては、相談員が一般相談で内容をうかがってから予約します。詳しくはお問い合わせください。

専門家相談日時	内容
住まいの法律 おおむね 毎週土曜日 (10時~13時30分)	借家・借地・土地・建物・相続等に関する法律上の相談(弁護士)
住まいの資金計画 おおむね 月1回土曜日 (10時30分~12時)	住宅取得やローン返済、高齢期の住まいと暮らしに関する資金計画等(ファイナンシャルプランナー)
建築・リフォーム おおむね 隔週土曜日 (10時~13時)	建築設計や施工上の問題・建築関係法令等(建築士)
分譲マンション(法律) 月1回日曜日 (13時~16時)	管理組合運営・管理規約等に関する法律上の相談(弁護士)
分譲マンション(管理一般) おおむね 毎週木曜日 (14時~18時)	管理組合運営・管理規約・長期修繕計画等に関する相談(マンション管理士)

連携機関による定期相談(面接相談)

（公社）大阪府建築士会による建築相談：
 毎週日曜日13時~16時(受付は当日の12時30分~15時30分)
 ※12時30分に相談を受ける順番の抽選があります。

近畿税理士会による税務相談(予約制)：
 毎週土曜日(但し、2・3月を除く)13時~16時
 (TEL.06-6242-1177で予約受付)

インフォメーション



交通アクセス

- Osaka Metro谷町線・堺筋線、阪急電鉄「天神橋筋六丁目」駅下車3号出口直結
- JR大阪環状線「天満」駅から北へ約650m
- お車でお越しの場合は阪神高速道路「守口線」長柄出口 都島通り経由、約500m

開館時間

- 4階 住情報プラザ(相談・ライブラリー)
平日・土曜日/9:00~19:00
日曜日・祝日/10:00~17:00
- 3階 ホール/5階 研修室・会議室
平日・土曜日/9:00~21:00
日曜日・祝日/9:30~17:00

休館日

- 火曜日(祝日の場合は翌日)
- 祝日の翌日(日曜日、月曜日の場合を除く)
- 年末年始(12/29~1/3)
- ※上記のほか臨時休館する場合があります。

〒530-0041 大阪市北区天神橋6丁目4-20 大阪市立住まい情報センター4階
 TEL.06-6242-1160 FAX.06-6354-8601
 おおさか・あんじゅ・ネット <https://www.osaka-angenet.jp/>



● **住まいのライブラリー**で図書・雑誌などを利用できます。
無料
 住まいやくらし、大阪に関する図書、建築本や雑誌、機関誌、ミニコミ誌、企業広報誌、絵本などを自由に閲覧していただけます。また、図書の貸し出しも行っていきます(一部を除く)。
 ● **ホール・研修室をイベントや展示会・サークル活動・会議・研修会の場としてご利用いただけます。**
有料

3階 ホール



定員: 椅子のみの場合/300席(常設194席)
 机利用の場合/150席
 ※控室もあります。

4階 住まいのライブラリー



5階 研修室



定員: 机利用の場合/54席(常設36席)
 椅子のみの場合/70席
 ※研修室は区切って、少人数でもご利用いただけます。

MESSAGE BOARD

メッセージボード

令和6年度チャレンジタイアップ事業 の実施団体が決定しました！

ユニークなテーマや仕掛けのあるセミナーを協働で実施いただける団体を募集し、右記の団体が採択されました。

- 募集時期：令和5年10月26日から令和6年1月15日
- 審査日：令和6年2月21日

※住まい情報センターと住まい・まちづくりに取り組むNPOや専門家団体等が連携・協働するセミナー・イベントを通して、市民の皆様の住環境の質や大阪の居住地魅力の向上を図るタイアップ事業を実施しています。

※やむを得ない状況により、セミナーを中止する場合がございます。その場合は「おおさか・あんじゅ・ネット」等でお知らせします。

応募団体名	応募タイトル名
(公社)日本技術士会近畿本部 (登録)防災研究会	ワークショップ 「わが家の大規模災害への備えと 防災カードづくり」
(公社)インテリア産業協会 関西支部	インテリアと防災を考える
(一社)らふ	50歳から考える 老後の住まいとお金の話
大阪府住宅リフォーム マイスター制度推進協議会	もう迷わない！リフォーム事業者選び ～戸建て・マンションの 省エネルギーフォーム～(仮称)
(一社)日本清掃収納協会	少しでも長く住み慣れた自宅で 生活出来る片づけ、清掃、 生前整理の自立支援型のお部屋作り ～在宅介護の限界を超える～

建物の修景のご相談を お受けしています

無料

外観の特徴を活かした改修や、まちなみに配慮した整備等、市内の建物の「修景」に関する事ならどんなことでもご相談ください。

また、修景工事費の一部を補助する制度(要件あり)もございます。

まずはお気軽にお問い合わせください。

●修景相談の例

- ・昔の雰囲気を残しつつ、傷んだ外観を整えたい。
どの部分をどう活かしたらいいのだろう。
- ・建物全部を修景するのは大変そう。ちょっと直す
だけでもいいのかな？

【お問い合わせ】
大阪市都市整備局まちなみ環境グループ
TEL:06-6208-9631



●修景の事例

うだつや
祝家(西成区)

岸里玉出にひっそりと佇む旅館の町家建築の特徴を活かした修景



Before
外壁の塗替え、瓦の葺替え、
庇の歪み改善等

にしかわけながや
西川家長屋(中央区)

戦災をまぬがれた6戸長屋の統一感ある意匠の継承に向けた修景



Before
外壁の塗替え、瓦の葺替え、
1階庇の歪み改善等

大阪市立 住まい情報センター セミナー・イベントガイド 2024年

※やむを得ない状況により、定員の変更やセミナーを中止する場合がございます。その場合は「おおさか・あんじゅ・ネット」等でお知らせします。

住まい情報センター 主催イベント

住まい情報センターが主催するセミナー・イベントです

■住まいの基礎知識

◎住まいを購入する(全10回)

第1回 住まいのお金編① 「資金計画と住宅ローン」

個別相談のみ
当日抽選

- 日時: 4月20日(土) 13:30~15:30
- 場所: 3階ホール
- 講師: NPO法人 日本FP協会大阪支部所属FP
- 定員: 会場50名(申込先着順)
オンライン100名(申込先着順)
- 個別相談: 定員4組(事前申込要)

第2回 住まい探し編「はじめての住宅購入 ~自分に合った住まい探し~」

- 日時: 5月11日(土) 13:30~15:30
- 場所: 3階ホール
- 講師: (一社)大阪府宅地建物取引業協会
研修インストラクター
- 定員: 会場50名(申込先着順)
オンライン100名(申込先着順)

第3回 戸建て住宅編「戸建て住宅を購入する」

第4回 住まいの設計編「住まいをつくる/ リノベーションする」

- 日時: 5月25日(土)
 - 第3回 13:30~15:00
 - 第4回 15:15~16:45
 - 場所: 3階ホール
 - 講師: [第3回] (一社)大阪府宅地建物取引業協会
研修インストラクター
[第4回] (公社)日本建築家協会 近畿支部
 - 定員: 会場50名(申込先着順)
オンライン100名(申込先着順)
- ※どちらかひとつでもご参加いただけます。

第5回 分譲マンション編①「分譲マンション を購入する」

第6回 分譲マンション編②「分譲マンション リフォーム前に知っておきたいマンシ ョン管理」

- 日時: 6月15日(土)
 - 第5回 13:30~15:00
 - 第6回 15:15~16:45
 - 場所: 3階ホール
 - 講師: [第5回] (一社)大阪府宅地建物取引業協会
研修インストラクター
[第6回] (公社)大阪府建築士会建築相談委
員会マンション維持管理支援部会
 - 定員: 会場50名(申込先着順)
オンライン100名(申込先着順)
- ※どちらかひとつでもご参加いただけます。

第7回 住まいの省エネ編 「省エネな住まいづくり」

- 日時: 6月29日(土) 13:30~15:30
- 場所: 3階ホール
- 講師: 野池 政宏((一社)Forward to 1985 energy
life 発起人)
- 定員: 会場50名(申込先着順)
オンライン100名(申込先着順)

第8回 住まいの契約編①「重要事項説明書」

第9回 住まいの契約編②「契約書」

- 日時: 7月6日(土)
 - 第8回 13:30~15:00
 - 第9回 15:15~16:45
 - 場所: 3階ホール
 - 講師: [第8回] 国土交通省 近畿地方整備局
[第9回] (一社)大阪府宅地建物取引業協会
研修インストラクター
 - 定員: 会場50名(申込先着順)
オンライン100名(申込先着順)
- ※どちらかひとつでもご参加いただけます。

参加申し込み方法

- ウェブサイトからの申し込み
申し込みは開催日の約2カ月前からになります。
- はがきまたはFAXで申し込み
記入事項を明記し、下記の住所、FAX番号へお申し込み
ください。
〒530-8582(住所不要)大阪市立住まい情報センター4F
FAX:06-6354-8601
- 記入事項: イベント名、住所、名前(フリガナ)、年齢、参
加希望日、電話番号、手話通訳希望の有無、個別相
談希望の有無など
- 参加費は特記以外無料、要事前申し込み。申込先着
順の場合は、定員になり次第締切。抽選の場合は、締
切後も定員に満たない場合は引き続き募集します。

- 申し込みの際の個人情報、主催者で適切
に管理し、イベントに関する連絡、統計デー
タおよびイベント保険(必要な場合)への加
入にのみ利用します。
- 午前8時45分時点で、「暴風警報」が発令さ
れている場合は中止とさせていただきます
が、セミナー開始3時間前までに解除された
場合はセミナーを実施します。
- 手話通訳をご希望の方は開催2週間前ま
でにお問い合わせください。
- オンライン受講を希望される方はウェブサ
イトからお申し込みください。

【注 意】

一部のイベントを除き、参加証の発送はありません。
「申込先着順」のイベントにお申し込みいただいた場合は、
イベント開催当日、直接会場にお越しください。「抽選」の
場合に限り、はがきかEメールで当落をお知らせします。

おおさか・あんじゅ・ネット
▶<https://www.osaka-angenet.jp>



あんじゅ読者アンケートに



ご協力ください!!

みなさんのお声をさらなる紙面づくりに活かします。



ぜひご登録 ください。

メルマガにご登録頂きますと、住まい情報センター
主催のイベント情報が登録メールに配信されます。



あんじゅバックナンバーはこちらから



あんじゅ編集通信



大阪市ハウジングデザイン賞と併せて実施しているシンポ
ジウムも今年で10回目となります。シンポジウムの企画に
あたり、同賞創設時のエピソードを高田氏より伺っている
うちに、大阪に住む皆さんや、住宅を供給する事業者の方
に、「ハウジングデザイン賞」をもっと知ってほしいと思い、
今号の特集につながりました。シンポジウム内で、江川氏
より受賞住宅はどれも「その場所に合った建物」であつた
とのお話がありました。建物は現地で見てください。気候
のよい春が始まります。ぜひ、この機会に大阪に建つ魅力
ある住宅に会いに行ってみませんか。

企画展

大阪くらしの今昔館所蔵品展

「春夏秋冬 花鳥風月に遊ぶ」

◆会 期：4月20日(土)～6月23日(日)

◆主 催：大阪くらしの今昔館

◆観覧料：企画展のみ500円

※会期中の休館日等は下記館情報を参照ください。

大阪くらしの今昔館では、近世から近代にかけて大阪で活動した絵師(大阪画壇)の作品を収集しています。彼らの作品の多くは、四季折々のまちの景観や年中行事を画題としています。本展では月岡雪鼎、佐藤魚大、西山完瑛、菅橋彦、五井金水など、近世から近代にかけての大阪画壇の作品を展示します。大阪の人々が愛好した春夏秋冬・花鳥風月の世界をお楽しみください。



源氏物語図屏風(部分)個人蔵
展示期間4月20日～5月20日

常設展

■商家の賑い

令和6年4月7日(日)まで

■夏祭の飾り

令和6年4月13日(土)～令和6年9月1日(日)



イベント

ゴールデンウィークは今昔館におでかけ
5月4日(土・祝)～5月6日(月・振休)

■今昔館の風景を額縁に飾ろう

4日(土・祝) 13:00～15:00

・材料費:300円

・当日先着16名

■あてもの

5日(日・祝) 10:00～16:00

・当日先着200名(小学生以下)

■兜を折ろう

5日(日・祝) 13:30～15:00

・材料費:100円

・当日先着16名

■紙芝居特別公演

6日(月・振休) 13:00～15:00



ワークショップ

■組みひもストラップ作り

4月13日(土) 13:30～15:00

・材料費:300円

・当日先着20名

■桜ストラップ作り

4月14日(日) 13:30～15:00

・材料費:300円

・当日先着16名



■水引きでブローチ作り

4月27日(土) 13:30～15:00

・材料費:300円

・当日先着20名

■ポスターで紙袋を作ろう

5月11日(土) 13:30～15:00

・材料費:100円

・当日先着20名

■万華鏡作り

5月12日(日) 13:30～15:00

・材料費:200円

・当日先着16名

■綿線りと糸紡ぎ体験

5月25日(土) 13:30～15:00

・人数制限なし

■折り染め

6月8日(土) 13:30～15:00

・材料費:200円

・当日先着20名

■手ぬぐい遊び

6月9日(日) 13:30～15:00

・材料費:200円

・当日先着16名

■版木はがきを刷ろう

6月22日(土) 13:30～15:00

・材料費:200円

・人数制限なし

■簡単折紙

毎月 第4水曜日 14:00～15:30

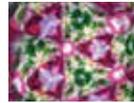
・材料費:100円

■折り紙を折ろう

偶数月 第3土曜日 13:30～15:00

・材料費:100円

・当日先着16名



■鶴のつなぎ折り

奇数月 第3日曜日

13:30～15:00

・材料費:100円

・当日先着16名



見て聞いて楽しむ

■上方ことば塾

毎月 第2日曜日 14:30～15:00

■今昔語り

毎月 第3日曜日 14:30～15:00

■紙芝居

毎月 第3日曜日 11:00～12:00

奇数月 第3土曜日 14:30～15:00

■絵本で楽しい時間

毎月 第4日曜日 14:30～15:00

■芝居語り

毎月 第4日曜日 ①13:00～②14:00～③15:00～



大坂について学ぶ

■町家ツアー

平日・土曜日 10:20～

日曜日・祝日 13:10～

■町の解説

毎月 第1・3日曜日 13:00～15:30



※入場料(常設展)が必要です。
※費用の記述がないものは参加無料です。
※材料費は、当日お支払いください。
※日程等、予告なく変更になる場合がありますので予めご了承ください。
※定員があるイベントは8階受付で12時から参加券を発行します。
※ワークショップは定員に達し次第終了します。



大阪市立住まいのミュージアム

大阪くらしの今昔館 



【9階なにわ町家の歳時記】

江戸時代の大坂の町並みを実物大で再現。大通りには、風呂屋や本屋、薬屋などが並び、ひととき高い火の見櫓も。路地を抜けると裏長屋の庶民の生活をかきまみすることもできます。



【8階モダン大阪パノラマ遊覧】

近代大阪の代表的な住まいと暮らしをジオラマや資料で再現。

“たてもの御財布めぐり”に参加中!

9階展示室前にて頒布しております。
※入場料が必要です



開館時間

10:00～17:00(入館は16:30まで)

休館日

火曜日 年末年始 その他臨時休館あり

4月～6月の休館日	4/ 2. 8. 9. 10. 11. 12. 16. 23. 30 5/ 7. 14. 21. 28 6/ 4. 11. 18. 25
-----------	--

入場料

一 般 600円/団体500円(20人以上)
高・大生 300円/団体200円(20人以上)
※中学生以下、障がい者手帳・ミライロID原本等持参者(介護者1名含む)、市内在住の65才以上無料(要証明書原本提示)
※企画展示の観覧料は別途必要です。

交通機関

●Osaka Metro谷町線・堺筋線、阪急電鉄『天神橋筋六丁目』駅下車 3号出口より住まい情報センター建物の地階へ連絡、エレベーターで8階へ
●JR大阪環状線『天満』駅から北へ約650m

〒530-0041

大阪市北区天神橋6丁目4-20(住まい情報センタービル8階)

TEL:06-6242-1170 FAX:06-6354-8601



企画展

「船場花嫁物語Ⅱ」 レポート

大阪くらしの今昔館では令和5年12月9日〜令和6年2月12日を会期として企画展「船場花嫁物語Ⅱ」を開催しました。展覧会の内容をアーカイブにし、あらためて展示の意義を振り返ります。

大阪くらしの今昔館学芸員 深田智恵子

本展覧会は、昭和14年に行われた船場の商家、浮田家(次男光治)と廣野家(長女カツ)の婚礼を紹介したものです。浮田家は東区北久太郎町(現中央区船場中央)で文庫紙を扱う商家でした。文庫紙とは反物を包む紙で、着物を包むたとう紙よりも厚手のものです。和装が一般的だった



船場花嫁物語Ⅱ 会場風景



浮田光治・廣野カツ結婚写真(昭和14年)

昭和戦前期、文庫紙の需要は高く、浮田文庫紙店は京都や名古屋にも店舗を構える大商店でした。一方、廣野家は安堂寺橋(現中央区南船場の輸出玩具商で、外国人向けの日本土産などを扱っていました。

船場の商家同士の婚礼は、伝統儀礼に従い華やかに行われました。挙式は住吉大社、披露宴は昭和7年開館の日本綿業会館(東区備後町*現中央区)を会場としました。

展示資料は、廣野家が娘・カツのために誂えた嫁入り道具の中から着物を中心に構成しました。

船場の商家にとって嫁入り道具は娘への財産分与の意味があり、嫁ぎ先で娘が不自由することが無いように一生分の着物や装身具、身の回り品を調べ、その内訳を書き上げた「荷物目録」を添え婚家へと送り出しました。

目録は着物類から書き始められ、「御式服(礼服)」として花嫁衣装に続いて黒留袖、色留袖、訪問着の袷、単衣、紵が合せて17着。「御略服(普段着)」として、小紋、お召、浴衣などが80着余り。式服用、日常用の

帯が合計63本。羽織、コートなど上着類22枚が記載されています。

会場には、花嫁衣装、お色直しの振袖などの礼装のコーナーと、普段着を紹介するコーナーを設けました。また、羽織やコート、帯の他、半襟、帯締め、帯揚げ、帯留め、簪などの和装品の展示もしました。さらに、かつての船場の女性の暮らしぶりが窺える手許筆筒や文机などの家具、漆に蒔絵を施した硯箱やワニ皮やビーズのバッグ、切子の化粧瓶類などの手廻り品も展示しました。

嫁入り道具はいずれも素材、意匠、技術ともに贅を尽くした高級品で、船場商家の財力を伺わせるとともに、娘への思いが感じられます。

太平洋戦争に向かつて世相が厳しくなりつつあった時代、愛娘の婚礼のために廣野家が調えた華麗な花嫁仕度の品々に、古き良き船場文化に思いを馳せる展示となりました。



廣野カツ花嫁衣装(昭和14年)

きものしおりイベント



企画展のイベントとして、今昔館オリジナル「SDGsきものしおり」を来館者にプレゼントする企画を、今昔館の学芸員、住まい情報センターのライブラリー担当、相談担当が連携して実施しました。

現代のように物が豊かではなかった高度経済成長長期以前は、古くなった着物は、仕立て直して寝間着や産着として再利用されました。それも古くなる



「きものしおり」に多勢の希望者が並びました

と、おしめや雑巾とし、最後は薪の代わりに煮炊きに使い、残った灰は畑の肥料として、最後の最後まで使い切りました。「SDGsきものしおり」は今昔館と住まいのライブラリーのボランティアが古着を解いて傷みの無い部分を選んでハギレにし、色柄の組み合わせを考えて手作りしました。古着とは思えないほど可愛らしい「きものしおり」で、SDGsへの関心が広まれば幸いです。

廣野家の

嫁入り支度にみる
大阪風モダンデザイン

武庫川女子大学附属総合ミュージアム

館長 横川 公子
よこがわ きみこ

廣野家のお嫁入り道具は高麗橋三越で誂えられました。三越は江戸時代以来の呉服商で、お嫁入り道具のなかでも、とりわけ着物については素材、染織、意匠のいずれも贅を凝らした高品質なものばかりでした。カツのために誂えられた着物は、当時の流行や廣野家の好み、三越の個性と相まって独創的な洗練されたものとなっています。



(1) 黒緑ピロード段替わり長コート(個人蔵)



(2) 銀摺箔葉っぱ文様コート(個人蔵)



(3) 三越タグ



(4) 几帳文様羽織(今昔館蔵)



(5) 紫縮緬花文様袷訪問着(個人蔵)

昭和14年に執り行われた浮田家と廣野家の結婚に際し、廣野カツさんの花嫁衣装は伯母の差配により、三越で誂えられたといえます。現代に比べて、当時はまだ着物の色柄に関東と関西との違いが見出されるものもあり、高島屋は京都風、三越は東京風など、着物をどこで誂えるかによっても違いがみられました。嫁入り道具の「目録」に掲載されている着物のなかには東京風といえるものもあり、当時の色柄の傾向を知る貴重な資料といえます。

「黒緑ピロード段替わり長コート(1)」と「銀摺箔葉っぱ文様コート(2)」のコート2点には、「三越」のタグ(3)がついています。いずれも「目録」には掲載されていません。昭和初年代から、高級品を扱う百貨店は宣伝部門にデザイナーを採用し、得意顧客は提供されたモダンなライフスタイルを取り入れていました。「銀摺箔葉っぱ文様コート」はそうしたモダンな着物の一つでしょう。赤・オレンジ・グリーン・紺などのコントラストの強い原色を大胆に配したデザインは、「企画展 文様採集」(2024年2月21日～4月7日)に展示中の「几帳文様羽織(4)」(大阪くらしの今昔館蔵)と共通する雰囲気があり、三越

のものですが、「銀摺箔葉っぱ文様コート」の赤色・黄色などの色使いは、当時の三越のモダンな雰囲気のみでとれます。昭和初年代から、高級品を扱う百貨店は宣伝部門にデザイナーを採用し、得意顧客は提供されたモダンなライフスタイルを取り入れていました。「銀摺箔葉っぱ文様コート」はそうしたモダンな着物の一つでしょう。赤・オレンジ・グリーン・紺などのコントラストの強い原色を大胆に配したデザインは、「企画展 文様採集」(2024年2月21日～4月7日)に展示中の「几帳文様羽織(4)」(大阪くらしの今昔館蔵)と共通する雰囲気があり、三越の囑託デザイナー杉浦非水(1876～1965)によるものと思われる。大阪くらしの今昔館に寄託されている廣野カツさんの花嫁衣装には、「目録」に掲載されているもの以外の着物も多数含まれており、そのなかには廣野家の家紋が付いた着物もあります。これらは婚礼前に誂えられたと想像されるもので、当時の大阪で好まれた柄行きの着物がみられます。大阪の時代には、おしゃれ着では特に、大柄で派手な柄行きが多く、大阪風の好尚として特徴づけられます。例えば、「紫縮緬花文様袷訪問着(5)」にみられる大柄の模様をゆったりと表現するあたりは、大阪風ともいえるでしょう。

大阪くらしの今昔館 

news

行って、	見て、	発見、
------	-----	-----

大阪くらしの今昔館 新収蔵品

桜下美人図 江戸時代後期

佐藤魚大 さとうぎょだい 生年不詳、天保八（一八三七）年頃

咲きこぼれる八重桜に両腕を伸ばし、枝を折ろうとしている女性。桜の枝は裂け、その振動で花びらが散っています。大胆で意表をつく構図とは対照的に、女性の表情は柔和で優しく、作品は優美な

情感にあふれています。女性の顔貌をみると、眉を刺つて額上部に描き眉をし、口元は高価な笹紅をさし、御殿風の「下げ上げ」に髪を結っています。着物は墨絵風で色彩を抑えています。帯は対照的に鮮やかな橙色で、大きく描かれた白菊が際立っています。また、鯉口という狭い袖口や舟底型の袂、幅の狭い帯を結び切りにして下方に垂らす公家風の着付をしています。たくし上げたお引きずりの裾を帯に挟んで引き出し、足元は庭下駄を履いているので、ごく近い外出の様子を描いています。

後醍醐天皇と禧子はおしどり夫婦として「増鏡」など複数の歴史物語に記されています。御所の桜を折ることは禁忌とされていましたが、帝は禧子を咎めることなく、次の歌を送っています。

九重の雲の春の桜花
こののえ
 秋の宮人いかでおるらむ

雲の立つ大空に向かつて高く咲く春の桜花（紫宸殿の桜を指す）を、秋の宮人（中宮に仕える人）が、どうして折ったのだろうか

これに対する禧子の返歌は、
 たをらすは秋の宮人いかてかは
みやびと
 雲の春の花をみるべき

秋の宮（中宮）である私が、宮中の春の桜のように愛しいあなたに、どうしても逢いたかったからです

「新千載和歌集」春下一一六・一一七

禧子の実家の西園寺邸は「秋の深山」と呼ばれ、禧子は「秋の宮」と称されています。女性の帯の白菊は「秋の宮」即ち禧子の暗喩として描かれたものと思われま。鑑賞者は本図を見て、帝と禧子の逸話や紫宸殿の桜に思いを巡らせ、さらに、帝が吉野に南朝を樹立した歴史から、名所吉野の桜へ思いを馳せたことが想像されます。

佐藤魚大は、長堀三休橋南に居住し、山水画や風俗画を描いて船場の旦那衆に愛好されました。本図は古典、和歌、歴史的な知識の基に鑑賞すると、画面を超えて様々な情景へと想像が広がる作品です。このような作品が受容され愛好されたことは、大坂町人の教養の深さを物語っています。

深田 智恵子
 （大阪くらしの今昔館学芸員）



企画展「春夏秋冬 花鳥風月に遊ぶ」にてご覧いただけます。（展示期間4/20～5/20）